

令和3年度

# 事業報告書

## 【重点項目】

- 1 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする
- 2 プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる
- 3 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

社会福祉法人おおぎだ

## 目 次

### 令和3年度社会福祉法人おおぎだ事業報告

事務局.....p1

#### 各事業所別事業報告

特別養護老人ホームローズヒル(従来型・ユニット型) ..... p5

短期入所生活介護(従来型・ユニット型) ..... p7

茂呂デイサービスセンター ..... P8

美茂呂デイサービスセンター ..... p9

ケアハウス菜の花 ..... p10

茂呂ヘルプサービスセンター ..... p11

茂呂居宅介護支援事業所 ..... p12

厨房部門 ..... p13



4 予算・事業計画管理

(1)月次報告

(2)管理者会議 42 回開催

職員処遇、求人関係、規程の改正、理事会・評議員会開催準備、制度の対応、予算関係、研修関係

5 人事・組織管理・人材育成

(1)令和4年4月1日 ( 137 人 ) 現在の職員数

部署 職名	特養(短期含む)		ケアハウス		訪問介護		茂呂デイサービス		美茂呂デイサービス		居宅介護支援事業	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長 (管理者)	1 (統括1)		(1)		(1)		(統括1)				1	
副施設長		1										
医師		(1)										
生活相談員	2		1				1		1			
サービス提供責任者					1	2						
介護職員	56	22	1				3	6	1	4		
看護職員	7	2					1	1	1	1		
訪問介護員						5						
介護支援専門員	2										2	
機能訓練指導員		1										
管理栄養士	1											
事務員	4	3										
合計	73	29	2		1	7	6	7	4	5	3	

参考

令和2年4月 (127人)	65	28	2		1	8	5	6	6	3	3	
令和3年4月 (136人)	73	26	2		1	8	5	8	4	6	3	

注:( )は総数に含まれない。

(2)入・退職状況

区分	職員	専門職準職	一般準職員	嘱託	合計
入職者	11 (17)	0 (0)	8 (8)	0	19 (25)人
退職者	7 (10)	0 (0)	8 (4)	0	15 (14)人

注:( )は昨年度実績

(3)評価、処遇調査、個人面談実施

(4)特養ではエリアごとの職員目標人数を確保することができた。

6 自己研修 各事業所の報告による。

## 7 防災対策

- (1) 防災委員会 2 回開催、研修会 2 回開催
- (2) 消防訓練(昼想定)・水害訓練 9 月実施  
消防訓練(夜想定)・防犯訓練 3 月実施
- (3) 建築物、建物の点検(自主点検)実施 9 月、3 月

## 8 施設・設備維持管理

- (1) 空調・ボイラー設備点検 7 月、12 月
- (2) 全館定期清掃 8 月
- (3) 受水槽・水質検査点検 5 月
- (4) 厨房害虫調査 毎月実施

## 9 安全衛生

- (1) 感染対策・事故防止委員会開催 各事業所報告による。
- (2) 安全衛生委員会 13 回開催 (新型コロナウイルス感染防止関係)、研修会開催 1 回  
職場巡視 8 回実施、嘱託医との話し合い 10 回開催
- (3) 浴槽ろ過装置点検実施 9 月
- (4) 浴槽水質検査実施 8 月 デイ9 月再検査
- (5) 職員健康診断実施 4 月(夜勤者)、10 月全職員
- (6) インフルエンザ予防接種実施 10 月
- (7) ストレスチェック実施 10 月
- (8) 腰痛予防アンケート実施 10 月、3 月(特養)
- (9) 新型コロナワクチン接種 3 回目 207 名 その後、随時接種

## 10 サービスの向上

- (1) 連携会議 12 回開催  
利用空き情報、事業所間の情報交換と業務改善提案、地域や家族の情報交換、会計月次報告、増築の進捗状況、理事会・評議員会報告、介護報酬の改定内容の周知
- (2) ISP(生きがいサポートプロジェクト)会議の実施  
① 採用・定着・育成について 感染防止の為開催なし。
- (3) 苦情改善委員会開催 9 月、3 月  
苦情受付 0 件、皆様の声(意見箱) 0 件

## 11 地域福祉関係

- (1) 入所家族に関する事項

ローズヒル・短期入所者への面会状況

年 度	入所者の定員	年間	月平均
令和元 年度	130 人	5,169 人	430 人
令和 2 年度	—	—	—
令和 3 年度	—	—	—

\* 令和 2 年度以降は、面会禁止の為、各部署報告による。

(2) ボランティア状況

- ① 意見交換会と感謝会 中止
- ② 慰問等の受け入れは中止
- ③ 感謝状授与

年 度	個 人	団 体
令和元 年度	12 人	5 組
令和 2 年度	-	-
令和 3 年度	-	-

\* 令和 2 年度以降は、受け入れ中止の為対象者はありませんでした。

(3) 広報委員会 11 回開催

- ① おおぎだより 27 号、28 号発行
- ② ホームページの更新 随時
- ③ パンフレットの変更

(4) 地域への広報活動

- ① ミニデイ支援中止
- ② チャレンジウィーク及び実習生の受け入れ中止
- ③ 介護体験等の受入中止
- ④ 伊勢崎市公園緑地課主催「オープンガーデン」 5 月 15 日・16 日開催
- ⑤ 「知ってもらおう介護の仕事」は訪問中止の為資料のみ届ける。
- ⑥ 鯉のぼり掲揚(期間 4 月 27 日～5 月 18 日)
- ⑦ フードバンク活動支援(とまり木の会)へ非常食の寄付(7 月、11 月、3 月)

12 福利厚生

(1) 親睦会 補助金支給 1 人 約 6,000 円

- ① クリスマスケーキ配布 (122 人)
- ② 商品券(2,000 円分)配布 (127 人)

(2) 10 年表彰・アイデア表彰・職員紹介

年 度	10 年表彰受賞者	アイデア提案	職員紹介者
令和 元年度	2 人(特養 1、デイ1)	3 人(特養 3)	4 人(特養 3、訪問 1)
令和 2 年度	4 人(デイ 3、訪問 1)	2 人(特養 2)	2 人(特養 1、デイ 1)
令和 3 年度	<u>6 人(特養 4、居宅 1、事務 1)</u>	<u>2 人(特養 2)</u>	<u>3 人(特養 2、デイ 1)</u>

注:( )は所属事業所

# 特別養護老人ホームローズヒル（従来型・ユニット型）

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1)地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① エリアごとの目標も決まり、新型コロナウイルス感染防止も行いながら、暑中見舞い作成、芋ほり、収穫したトマトでスープを作ろう、花火大会、夏祭りなど四季を感じる行事を、下期では赤城エリアの秋祭りが行われ、職員が一カ月半をかけ設計図から仕上げた段ボール御神輿が入所者にも大好評でした。
- ② 上期では、治療を望む家族も多く看取りの実績はありませんでしたが、下期では家族の希望により看取りを希望されるの方が多く、6件の実績でした。家族と一緒に、本人の以前の生活を振り返ったり、今後の看取りの方向性を一緒に確認する、人生会議も6例行われました。

#### 【看取り実績】

令和元年	2件	令和2年	1件	令和3年	6件
------	----	------	----	------	----

### (2)プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 排泄係を中心とした、皮膚洗浄の導入、それに伴うパッド変更、入浴係を中心に皮膚へのやさしさ、洗いやすさ、コストや耐久性なども考慮した洗体タオルの研究を行いました。オンラインを利用した関節拘縮の方のマッサージ指導、職員が気づき、考え、実行した素晴らしい業務改善でした。その他では、3つ目のおおぎだ神社が完成し、毎日のお参りを習慣にする方も多く利用者の生きがいやリハビリにつながりました。伊勢崎銘仙捺染職人である入所者の旦那さんを紹介するコーナーもでき、入所者に笑顔が見られました。

#### 【資格取得】

- ・介護福祉士国家資格 3名合格     ・特定行為業務従事者(喀痰吸引) 2名取得
- ② 新人指導の統一化、チームで新人を育てる育成プログラムの構築、気づきや思いやりを反映させた介護マニュアルが完成しました。
- ③ 有休取得実績  
516日／82名（有休取得日数／職員数） 平均 6.2日     （R2年度 6.6日）  
目標達成者数 58名

### (3)感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 新型コロナウイルス感染シミュレーションの実施。Q&A方式で、場面を想定してどう対応したら良いかの検討を行いました。それぞれのエリアごとに発生した時のゾーニングについても図面を用いて職員出入口、更衣室、閉鎖場所など細く決めました。

② 目標ベッド稼働率(短期と合わせ) 従来型 89.4% ユニット型 94.9%

従来型では、4月14日11丁目が開所し、職員は集まりましたが研修期間もあり、受け入れが7月以降にずれ、入院者が多かったことから、目標に達することはできませんでした。ユニット型では、ショートステイの稼働率が高く入院者も少なかった事から目標を上回る事が出来ました。

※平均介護度 従来型3.99 ユニット3.96 (参考 R2 3月末従 4.02 ユ 4.00)

③ 厚生労働省より、新型コロナウイルス抗原検査キットが配付され迅速に検査が行えるようになりました。

【ゾーニング・検査実績】

日時	ゾーニングエリア	感染状況	抗原検査	対策・業務縮小等
1/25	妙義1F	職員陽性 (PCR検査) 保健所指示	8・9入所者・職員全員	フェイスシールド着用・休憩室エリア別・入浴調整・県・市保健所報告・老施協報告
1/26	妙義2F	看護職員濃厚接触者認定(PCR-)	5・6・7入所者・職員全員・榛名経管栄養者・本人出勤時抗原検査	フェイスシールド着用・ゾーニング・施設内研修中止・入浴調整
2/2	榛名	職員濃厚接触者疑い	本人出勤時抗原検査	フェイスシールド着用
2/6	妙義1F	職員濃厚接触者疑い	本人出勤時抗原検査	入浴調整

※法人の抗原検査キットを使用しての検査では全て陰性でした。

④ 新型コロナウイルス感染防止の為、面会制限も引き続き行われました。

ガラス越し面会 579件 WEB面会 30件 (R2ガラス越し 216件・WEB 84件)

参考 新型コロナウイルス蔓延前

H29年 5,168件 H30年 5,441件 R1年 5,169件

2 委員会・定例会議

定期の委員会、会議については、滞りなく行われました。

感染委員会(臨時) 1回 警戒度3に伴うショートステイ利用について  
赤城エリア抑制廃止担当を中心にスピーチロックの研修会開催(全3回)

3 行事計画実績

感染に留意しながら、各丁目で多くの行事や企画が行われました。

赤城エリア 29件 外出行事4回

榛名エリア 15件 外出行事1回

妙義エリア 58件

## 短期入所生活介護(従来型・ユニット型)

### 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

#### (1)地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 利用者の居宅における生活と、利用中の生活が出来る限り連続したものになるよう情報収集に努め、支援する事ができた。
- ② ショートステイ稼働率が 117%であるように、空所・入院ベッドを利用し、柔軟に受け入れる事ができた。

#### (2)プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

#### (3)感染予防や災害への強化を図り安定した経営を継続する

- ① 8月4日から警戒度4になり、12月末まで事業を縮小した。
- ② 感染予防チェックリストを活用し、利用者・ご家族様の体調を確認後、利用して頂いている。
- ③ 5月から、看護体制加算Ⅲ・Ⅳ算定。
- ④ 令和4年1月から、ショート利用当日に抗原検査を実施し始め、感染拡大を未然に防ぐ事が出来ている。
- ⑤ 新規利用者 41名 (令和2年度 23名 令和1年度 54名)

### 2 会議、行事等については特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

# 茂呂デイサービスセンター

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 利用者のニーズに合わせ、午後からの利用の受け入れ、午後入浴の実施ができた。
- ② 時間延長(早朝・夕食付)に対応している。
- ③ 要支援者より、要介護者の受け入れに重点をおいた。美茂呂デイからの利用者を受けつぎ(3名)、茂呂デイからショート・ローズヒルへつなげることができた。(利用者7名)
- ④ コロナ感染防止で集団レクリエーションはできなかったが、DVDを活用しての口腔体操や音楽体操、転倒防止の運動を毎日実施できた。個人的に歩行訓練や日常動作維持のリハビリを実施できた。
- ⑤ 作品集として、利用者のデイでの様子を写真に撮ってアルバムにし、利用者に渡すことができ、家族にも利用者にも好評だった。
- ⑥ 季節ごとのフロア飾り制作を行い、毎月「デイ通信・空き情報」で、居宅介護支援事業所にデイの様子を伝えることができた。

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① ケース会議で利用者への「声掛け」や「支援方法」をふり返り、支援を行った。
- ② 職員会議に、事務局に入ってもらい、アドバイスを受けることができた。
- ③ 利用者職員数により、職員が協力し、柔軟に業務分担を超えて仕事ができしたが、非常勤職員が戸惑う事が多く、新人職員の教育の仕方が今後の課題である。
- ④ 職員一人一人が、おおぎだの重点項目に基づき個人目標を立て、評価できた。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 1日平均25名の目標に対して、23.4名だった。

新規利用者24名(茂呂居宅12名)。お試し利用者23名。担当者会議58回。

年間利用者人数

介護度	年度	R1年度	R2年度	R3年度	前年同期比
要支援 1・2		390	378	192	50%
要介護 1～5		6,858	7,187	7,072	98%
計		7,248	7,565	7,264	96%

- ② 居宅介護支援事業所に、利用者の様子の報告・連絡相談を継続している。毎月、茂呂デイ通信・空き情報を作成・配布してPRに努めた。
- ③ 水害・防災訓練(特養と合同)。
- ④ コロナワクチンの巡回接種を3回デイフロアで行った。(利用者30名、職員10名接種)
- ⑤ 職員会議の中で感染対策委員会を開催し、新型コロナウイルス感染者発生シュミレーション研修を行った。

## 2 行事・その他

- ① デイサービス運営会議を第2水曜日に再開、情報交換や勤務表の相談を行った。
- ② コロナウイルス感染拡大の影響で、レクリエーションが思うように行えなかった。おやつバイキング・選べるドリンク・出前ランチ等を行った。感染対策をしながら、レクリエーションを再開したい。
- ③ 職員研修:感染予防・環境整備・介護計画書見直し・リスク管理・記録の電子化・事業の評価と計画作成等。

# 美茂呂デイサービスセンター

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 機能訓練メニューを利用者に分かりやすく説明し、運動効果などを「みもろだより」で紹介した。要支援の方は個別に筋力トレーニングを行い、脳の活性化を図るトレーニングも加えた。体力測定(年2回)・握力測定(年4回)の実施。
- ② 季節感が感じられるフロア飾りや、個人制作(ストラップ等)が利用者に好評だった。
- ③ 利用時間や入浴時間に柔軟に対応し、午後入浴を行った。
- ④ 美茂呂デイから茂呂デイへと利用者をつなげることができた。(3名)  
ローズヒルショート利用者4名。

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① カンファレンスは、職員全員が参加し、利用者の支援方法の検討を毎月行えた。
- ② 職員会議に、事務局に入ってもらいアドバイスを受けることができた。
- ③ 業務分担の見直しはできなかった。(来期は、業務改善を意識して職務につけるように)
- ④ 職員一人一人が、おおぎだの重点項目に基づき個人目標を立て、評価できた。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 1日平均18名の目標に対して、14.4名。(昨年14.2名)  
新規利用者17名(茂呂居宅5名)。お試し利用者28名。担当者会議48件。  
年間利用者人数

介護度 \ 年度	R1年度	R2年度	R3年度	前年同期比
要支援 1・2	781	858	879	102%
要介護 1～5	4,611	3,566	3,575	100%
計	5,392	4,424	4,454	100%

- ② 創作活動や機能訓練・体力測定などの様子を「みもろだより」に掲載し、包括支援センターや各居宅介護支援事業所のケアマネージャーに配布し、特色をPRした。
- ③ 防災訓練2回実施。
- ④ コロナワクチンの巡回接種を3回デイフロアで行った。(利用者20名、職員7名接種)
- ⑤ 職員会議の中で感染対策委員会を開催し、新型コロナウイルス感染者発生へのシミュレーション研修を行った。

## 2 行事・その他

- ① デイサービス運営会議を第2水曜日に行い、情報交換や勤務表の相談を行った。
- ② ベランダの菜園では、ジャガイモ等を栽培した。利用者が草取り、水やりなど行い、収穫を楽しむことができた。その時の写真が老施協のフォトコンテストで佳作となった。
- ③ コロナウイルス感染拡大の影響で、外出行事やボランティア受け入れがなかったが、おやつ作りやおやつバイキング、出前ランチなど行った。
- ④ 職員研修:感染予防、体力測定方法、通所介護計画書の見直し、リスクマネジメント、記録の電子化、事業の評価と計画作成等。

# ケアハウス菜の花

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① コロナ禍オープンガーデンを開催することができたが、5/16～まん延防止措置がとられていた為、来園者が少なく 5/15 19名、5/16 2名でした。
- ② 「北千木作品展」「特別支援学校の運動会・きりのこまつり」が中止となり参加出来ませんでした。
- ③ 伊勢崎市主催の行事に参加することは出来なかったが、今後は伊勢崎市図書館等の利用も考えていきたいと思っています。

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 月1回居室を訪問し、お困りごとや不安等を聞いている。引き続き安全に過ごせるように訪問していきます。
- ② 他部署との連携 菜の花入居者定員 15名  
3/31 現在利用者

部署 \ 年度	令和2年度	令和3年度
茂呂居宅	9名	9名
茂呂デイ	5名	7名

- ③ 家族面談会はコロナが収束しなかった為、中止となりました。今後、職員から家族に電話連絡をしたり、オープンガーデンに来ていただき情報を共有していきたい。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① マニュアルの整備を引き続き行う。
- ② 新型コロナウイルス感染症の防止対応を警戒度に応じて実施。
- ③ 職員のみで、消防・水害・防犯訓練実施。消防設備点検を年2回居室内も業者により実施されている。懇談会等では入居者に伝え、全員で意識を高めて行く。
- ④ 電気製品点検 11月予定だったが、暖冬で発熱器具を使い始めるのが遅くなっているため12月の実施となった。

## 2 行事・研修・委員会

4月粕川沿いの桜見学	10月支援学校運動会中止、家族面談会中止
5月結核検診、オープンガーデン実施	11月北千木作品展中止
6月中庭で食事、家族面談会延期	12月クリスマス会(カレー・おでん作り)
7月お花見中止、七夕実施	1月初詣中止
8月納涼祭中止、レクを開始	2月支援学校きりのこ祭り中止
9月敬老会実施、消防(昼想定)・水害訓練	3月誕生会(出前・ビンゴゲーム) 消防(夜想定)・防犯訓練

(1) 感染症委員会 (8回)      研修会 (2回)

\*新型コロナウイルス対策で感染症委員会が多く開催された。

(2) 事故防止委員会 (4回)      研修会 (2回)

(3) 身体拘束委員会 (4回)      研修会 (2回)

(4) 施設内研修会 (1回)

(5) 施設外研修会 (3回)      \*動画・Webで視聴

# 茂呂ヘルプサービスセンター

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告。

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

①ヘルパー会議は開催できなかったが、個別に申し送りをして利用者の要望に沿った援助と支援が行えた一方で、利用者ごとのサービス手順やサービス内容にばらつきが生じるケースもあり、ヘルパー会議等でサービス提供の統一を図れるように検討をして行きたい。

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

①茂呂ヘルプサービスの利用者の50パーセント以上は茂呂居宅介護支援事業所からの依頼であるため、問題発生時には早急に相談し連携を取り、きめ細かいサービスでバトンを繋ぐことができた。

②感染防止の為ヘルパーの報告は、館内に立ち入らずに窓越し対応の報告を継続して行っている。

③資格取得では、実務者研修を2名が修了した。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

#### ① 利用時間

サービス提供時間 月平均 実績 = 685 時間 (目標 = 650 時間以上)

年 度	月平均利用時間
令和 元年度(2019)	679 時間
令和 2 年度(2020)	809 時間

目標月平均 650 時間に対し、685 時間になり、利用者の入院や入所、利用終了者もある中、新規の利用者や、利用時間の追加により目標を達成することができた。  
生活援助の利用者が、身体介護の必要がある場合はケアマネージャーにすぐに報告し、区分変更を行った。他のサービス利用により、感染が疑われ派遣が一旦、中止になったケースが3件あった。

#### ②利用者数と介護度

合計 62 人(前年度 60 人)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
11 人	9 人	19 人	15 人	5 人	2 人	1 人

③ 新規利用 26 人<要支援 9 人、要介護 17 人> (前年度 12 人)

④ 時間追加希望 4 人 (前年度 6 人)

## 2 職員研修

### (1)施設内研修・委員会

①ヘルパー会議(新型コロナ感染防止の為中止)

②苦情改善委員会と研修会(9月・3月)

③感染対策研修会(5月)

④安全衛生委員会 毎月

### (2)施設外研修

①県集団指導(Webで視聴 11月)

# 茂呂居宅介護支援事業所

## 1 おおぎだ重点項目に基づき報告

### (1)地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 新型コロナ感染拡大の影響により、新たなサービス事業所の見学は行えなかったが、事業所のパンフレットにより情報収集を行うことで利用者のニーズに合わせたサービスの利用へ繋げた。
- ② 他部署との連携をとることで、介護困難な方などはサービス利用に繋げることができた。また、家族の負担を軽減し住み慣れた地域で過ごす事ができた。
- ③ ミニデイの講師の派遣については、コロナ禍で前年度より行っていない。

### (2)プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 今年度は実地指導が行われ、必要書類を揃え返戻等なく終える事ができた。
- ② 事業所の会議は、毎月第二水曜日に開催していたが、スケジュールが合わない事があるため、日程を変更することで情報を共有し連携できるように努めた。

### (3)感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 安全衛生委員会や防災・水害・防犯訓練には必ず参加することで、新たな情報を共有できる体制を整えている。
- ② 他事業所の感染状況を把握し、安全衛生委員会等で伝達することで、おおぎだ全体に情報共有を行っている。
- ③ 新型コロナ感染発生時においても他サービス事業所と連携をとることで、サービス利用を継続できるよう調整を行う事ができた。

## 2 サービス提供実績

### (1) 実績件数

年 度	要支援	要介護
令和元年(2019年)	33	77
令和2年(2020年)	36	85
令和3年(2021年)	<u>39</u>	<u>94</u>

※利用者件数（月平均 小数点以下四捨五入）

要支援者は目標の42件には達しなかったが、要介護者はケアマネジャー1人30件の目標を3名で達成することができた。前年度と比較すると、要支援、要介護ともに上回る事ができた。

### (2) 加算取得

- ① 初回加算 13 件 入院時加算 7 件取得できた。
- ② 特定事業所集中減算は対象外を維持できている。
- ③ 相談件数は 19 件あり新規利用に 13 件つながった。  
内訳は、利用者家族 5 件、民生委員 2 件、知人・親戚の方 3 件、家族から直接 1 件、病院相談員 1 件、他事業所からの紹介 1 件であった。

## 厨房部門

### 1 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- (1) 行事食(月 1 回 全 12 回実施)、
- (2) 各部署からリクエストしたセレクト食(月 1 回 全 12 回実施)
- (3) 日本列島祭り紀行 (月 1 回 全 12 回実施)
- (4) 世界の食卓(月 1 回 全 11 回実施、12 月はクリスマスメニュー)
- (5) その他
  - ① 各部署の行事計画に沿ったサービスの提供  
(お誕生日会、夏祭りなど)
  - ② 毎月 1 日の昼食はお赤飯提供
  - ③ 月に 1 回日曜日の昼食は特養にパン提供
  - ④ 毎週日曜日の昼食はケアハウスに様々な種類のパン提供
  - ⑤ 各部署のおやつ作りの材料を提供

### 2 プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- (1) 定例事業
  - ① 給食サービス委員会(月 1 回、全 12 回)
  - ② 嗜好調査(11 月)
  - ③ 残食調査(毎食後)、評価・報告(6 月、9 月、12 月、3 月)
  - ④ 備蓄食品点検(9 月)
  - ⑤ 給食施設実施状況報告(12 月)
- (2) 日常事業
  - ① 栄養ケアマネジメントによる個々の栄養管理  
(入所者の身体状況管理、喫食量の把握、嗜好調査、栄養ケア計画・評価など)
  - ② 栄養帳票・衛生帳票の管理
  - ③ 厨房職員への衛生指導(衛生勉強会 全 12 回等)

### 3 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- (1) 安全衛生委員会にて研修会の実施  
「食中毒と感染予防」(6 月)
- (2) グリーンハウスグループの研修に参加
  - ① 刺身衛生講習会(8 月 5 名)
  - ② 介護報酬改定(9 月 5 名)
  - ③ 栄養ケアマネジメント(3 月 5 名)
  - ④ 食品衛生責任者講習会(3 月 4 名)
  - ⑤ 日本食品標準成分表 2020 年版(八訂)(3 月 5 名)